



SDGs 目標達成に向けた取組み

～ 株式会社サンコーシヤはSDGs実現に貢献してまいります ～

株式会社サンコーシヤSDGs宣言

- 国連サミットで『持続可能な世界を実現するための17のゴール/SDGs』が採択され、世界がそれぞれのゴールに向かい変わり始めています。
- 私たちサンコーシヤグループは、創業以来、自然災害である『雷』と向き合い、雷防護技術の発展に貢献して参りました。
- 当社技術は通信、電力網整備などの戦後復興事業への貢献をはじめ、高度成長のインフラ構築を支えてきました。
- 当社経営理念の1つでもある

「広く親しまれ社会に貢献するサンコーシヤを目指す」

という理念のもと、この『持続可能な開発目標、SDGs』に賛同し、当社創業100周年にあたる最終ゴール2030年に向かって事業活動と社会貢献活動を通じて持続可能な社会実現に 貢献してまいります。

The logo for Sustainable Development Goals (SDGs) features the words "SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS" in a bold, blue, sans-serif font. The word "GOALS" is significantly larger than "SUSTAINABLE" and "DEVELOPMENT". The letter "O" in "GOALS" is replaced by a circular icon composed of 17 small, colorful segments, each representing one of the 17 SDGs.

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

【SDGsとは？】

- 持続可能な開発目標(Sustainable Development Goalsの略称)。
- 2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』に記載された 2016年から2030年までの国際目標です。
- 持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないこと(Leave no one behind)を誓っています。
- SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本でも政府はじめ、さまざまな企業や自治体、NGO、NPO、教育研究機関などがいろいろな取り組みを行っています。 <外務省HP等 抜粋>





<都市インフラのレジリエンス向上>

～ 当社は雷防護システム及び関連製品の提供を通じ、通信・電力・交通等の重要インフラを雷被害から防護し、当社技術が都市機能のレジリエンス向上(※)に貢献することを目指してゆきます。～

(※) レジリエンス: Resilience、強靭性/事故や障害からの回復性・復元性

【エネルギー関連事業】



《目標 7》 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

- インフラ構築で培ったノウハウと最新技術を融合し、太陽光エネルギーなどのクリーンエネルギーや次世代エネルギーの設備・システムを社会に提供しています。
- また、BCP対策として注目を集める可搬型電源や万一の災害時に必要となる非常用電源として蓄電システムやディーゼル発電機、水素燃料電池など幅広いラインナップで、社会の要求に対応し、各インフラへのサービス安定供給の実現を目指してゆきます。



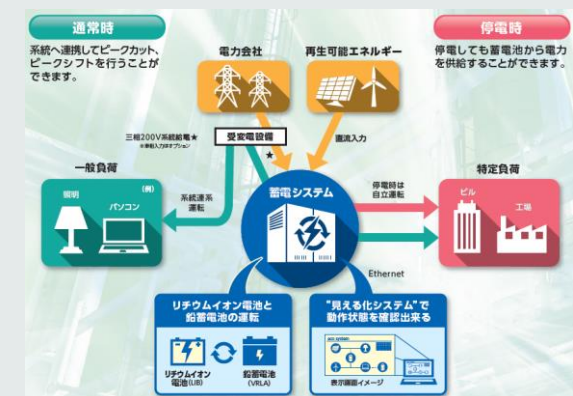
可搬型電源



水素燃料電池システム

「EneWhere Portable」

「altery systems」



ハイブリッド蓄電システム

【雷防護事業】



《目標 9》 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る。

《目標 11》 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。

- 当社は、昭和5年の創業以来、当社は「雷防護」にあたって常に基盤防護まで捉えた技術提供を徹底し、心がけてまいりました。
- 雷防護製品も創業当時の単品販売から拡大して、総合的な雷保護システム(避雷針から各種SPD: Surge Protective Devices や接地システムまで)、さらに雷観測システム、落雷情報提供(グループ会社/フランクリン・ジャパン)など雷防護に関する一貫した事業展開をしております。

通信用Smart SPD
SMH-CLPシリーズ



同軸用SPD
N-JP-6G



LAN用SPD
LAN-CAT5e-P+ II (R)





- 特に、雷コンサルティング部では、当社が蓄えたノウハウを基に、現地調査から対策提案、製品提供からメンテナンスまで一貫したサービスを提供し続けています。
- また、雷防護の先駆者として築きあげた技術とメソッドを活用し、高度にIT化された現代の産業インフラを雷被害から守ってゆくため、製品の供給にとどまらず、国内唯一の全国雷観測ネットワークを利用した落雷情報サービスやコンサルティング、システム構築までを、高い技術を駆使してトータルでサポート、雷被害による経済損失の最小化を目指してゆきます。

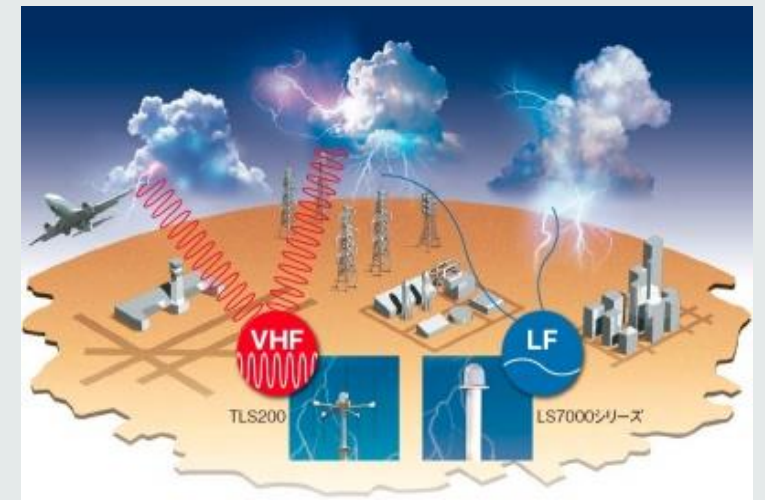
高絶縁外部雷保護システム
耐雷システム600



半導体サージ防護素子
SPダイオード



雷観測ネットワークシステム
落雷位置評定システム(LLS)



【情報通信ソリューション】

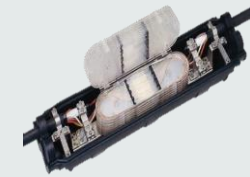


《目標11》 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。

- 最先端の独自技術と製品を駆使し、さらに緻密化・複雑化する情報通信ネットワークをサポートしています。
- 各種端子板をはじめとするメタル通信関連の機器・設備から、光デバイス、カプラをはじめとする光通信関連の機器・設備及び各種制御機器やCATV関連機器にいたるまで、より高速化する次世代コミュニケーションネットワーク構築に不可欠な製品を供給し、都市機能向上に貢献し、住みやすい街として、人々の満足度に貢献してゆくことを目指してゆきます。



光配電盤
加入者用光成端箱SOT



光クロージャ
S型クロージャ(幹線向け)



バッテリー監視装置



高輝度LEDを用いた
中光度赤色航空障害灯



信号設備用ハット
収納箱



変電所用 保安器箱
変電制御(直流用)保安器箱



<気象変動の適応対応策としての 雷防護事業と雷予測事業>

～ 近年、気候変動の影響で大気が不安定となり、落雷数が増加傾向にあります。当社の雷防護製品によって落雷被害を最小化させるとともに、雷対策情報や子会社/株式会社フランクリン・ジャパンの落雷予報などの提供により、雷被害回避や事前の落雷対応を可能にすることによる人的・物的被害の軽減を目指してまいります。～

【雷防護事業】



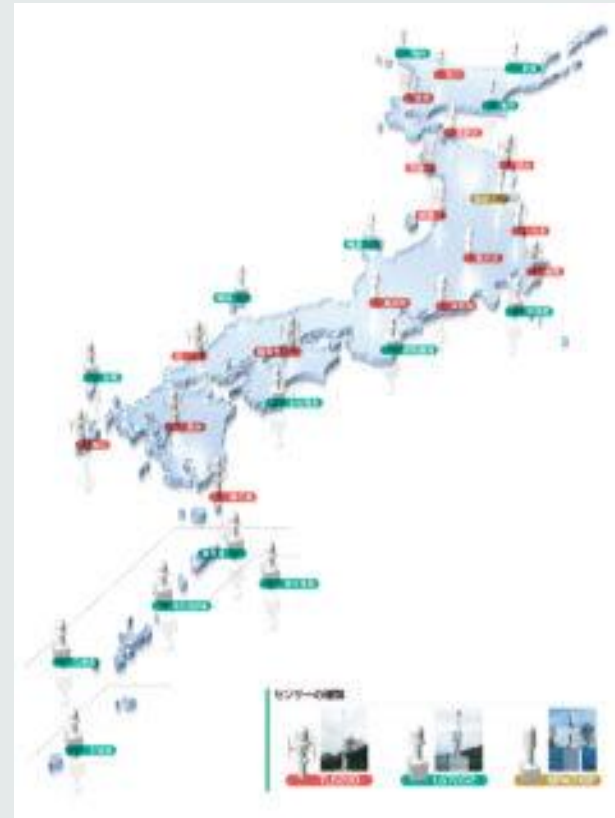
《目標13》 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対応を取る。

- 当社は、外部雷保護システムから内部雷保護システム、雷観測システムその他、当社では雷による被害を防ぐ「防雷」のみならず、「調査・分析」についても、早期より注力し、グループ会社/株式会社フランクリン・ジャパンが雷観測ネットワーク「JLDN」(※)を構築し、31基のセンサーにより国内全域での24時間体制リアルタイム雷観測を実現しました。
- 「JLDN」の雷データと気象庁の気象データを組合せ、人命や財産を守るための落雷・天気情報・雨量など情報提供サービスを展開することにより、雷被害回避や事前の落雷対応を可能にすることによる人的・物的被害の軽減を目指してまいります。さらに、観測結果を当社の様々な分析～雷防護技術向上に役立てることを目指してまいります。



(※) 全国雷観測ネットワーク
『JLDN (Japanese Lightning Detection Network)』

- 株式会社フランクリン・ジャパンが運用する全国雷観測ネットワーク。
- 北海道から沖縄まで31基のセンサーにより構成され、日本全国をシームレスにカバーした観測網となっており、『JLDN』の雷位置標定精度は、平均位置誤差300m以下であり、NALDN(北米)やEUCLID(欧州)などの大規模雷観測ネットワークとほぼ同等の精度を有しています。



全国31ヶ所に設置したセンサーをネットワーク化
(全国雷観測ネットワークJLDN)

ポータルサイトの気象情報
「Yahoo!天気・災害」

全国の落雷情報 (実況) 2016年4月21日 19時50分現在

[これまでの動き](#) [最新の雷と雨雲](#)

アニメーション[300KB] : [最初から見る \(60分前~10分前\)](#)

21日 18:50~19:50
(C)Franklin Japan Corporation

※落雷1発が+マーク1個で表示され、発生時間帯により色分けされています。

【雷防護事業】



《目標 1》 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

《目標11》 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする。

- “世界的災害である「雷」には、世界水準の本質的な「雷防護」を打ち立て向き合うべき”という理念の元、当社は海外市展開にも注力してまいりました。
- 現在ではアメリカ、中国、韓国、タイ、ベトナム、インドネシアの6カ国に拠点展開を図り、さらなる規模拡大を進めております。
- 世界各地のインフラ展開や経済発展に、当社の環境レベルに通じる技術力や視野が大きく貢献しています。
- “街に灯るあかりも、家族とつながる電話も、走る通勤電車も、今日のあたりまえが、明日も当たり前であるために。”当社は社会の根幹たる基盤(インフラ)を見つめ、雷防護技術と電気通信設備を通して、さまざまな社会インフラを支え続け、住み続けられるまちづくりへの貢献を目指してまいります。



广州圣科萨防雷科技有限公司

Sankosha VietNam



【雷に関する啓蒙活動】



《目標 4》 すべての人々に包摂的かつ平等で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

《目標13》 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対応を取る。

- 日本の高度成長を支えた様々なインフラ構築に大きく貢献してきた技術を有する当社は、他社との共同開発・研究にも積極的に取り組み、蓄積された知識と経験を活かし雷防護の国際規格作成にも積極的に参画しています。
- また、当社HPを通じて「雷対策の基本」「接地の基礎知識」なども公開、雷に関する幅広い知識・対策・情報の普及にも努めています。

(※) 「株式会社サンコーシャ」 <https://www.sankosha.co.jp>

(※) 「雷対策の基本」 <https://www.sankosha.co.jp/basic-lightning-protection/>

(※) 「接地の基礎知識」 <https://www.sankosha.co.jp/earthing-systems/>



- JLDN(全国雷観測ネットワーク)を運用するグループ会社/フランクリン・ジャパンも、雷情報の精度向上を目指し、社外の研究者と共に、JLDN観測データの検証や精度改善のための研究を行ない、多くの論文を発表しています。
- また、HPを通して雷について楽しく学んでいただける「雷(らい)ぶらり」も運営し、同じく雷に関する幅広い知識・対策・情報の普及にも注力しています。

(※) 「株式会社フランクリン・ジャパン」 <https://www.franklinjapan.jp/>

(※) 「雷(らい)ぶらり」 <https://www.franklinjapan.jp/raiburari/>



<パートナーシップ>

《目標17》 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

【『SDGs推進資金調達』 活用】



- 当社創業100周年にあたる最終ゴール2030年に向かって『持続可能な開発目標、SDGs』に賛同し、事業活動と社会貢献活動を通じて持続可能な社会実現に貢献してゆく取組みをスタートするに際して、当社はSDGs評価型資金調達を活用して、専門シンクタンクのヒヤリングを受け、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できるとの判定を頂きました。
- 業務関連性や今後のSDGs取組み推進に向けたアドバイスも受け、今後、当社は専門シンクタンクのアドバイスを参考に、『持続可能な開発目標、SDGs』主旨に沿って、積極的に持続可能な社会実現に貢献してゆくことを目指してまいります。



三井住友銀行様より
融資実行証の贈呈

『SDGs推進融資実行証』

